

平成 19 年度宮前区区民会議・企画部会（第 3 回）摘録

日 時 平成 19 年 11 月 5 日（月）18 時 00 分～20 時 00 分

場 所 宮前区役所 4 階第 2 会議室

出席者 小林委員長、浅野委員、川西委員、鈴木恵子委員、永野委員、目代委員、渡辺委員、

事務局 田邊企画調整担当主幹、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員、豊田職員

1．開会・事務連絡（事務局）

事務局から事務連絡

- ・ 会議の情報公開について
- ・ 本日の議題について

部会長あいさつ

2．議事

（2）各部会の審議結果について

ア 明日のコミュニティ部会

「部会提案（案）」資料 1 の説明（事務局：宇賀神部会長欠席の為、代理説明）

部会員との内容調整が未実施。全体会当日までに行う予定。

意見交換明日

浅野委員：具体的な活動がないと組織ができて長く続いていかないのではないかと。自治会加入率などは参考として出すのは良いが、あまり強調しない方が良いのではないかと。

川西委員 人と人とのつながりの強化、ご近所からということがまずあるべきだ。基本は地べたつながりになると思う。具体的な共通なテーマがないと人はやはり集まらない。こども安全・安心協議会は足がかりとして良いと思う。

地域安全マップと言ってもわからない人が多いかもしれない。当日説明することは難しいかもしれないが、実際に地域でつくったマップなど様々な資料があるので、全体会議当日に掲示するなど、提供が可能である。

鈴木恵子委員 野川地域で作成した地域の世話焼きさんなどのマップも、ぜひ持参したいと思う。全国的にも有名になっているマップである。「地域のつなぎ手は意図的、計画的に進められるものではなく、自然発生の環境づくりが望ましい」という主旨の記述は嬉しかった。

永野委員 明日のコミュニティ部会は、2 期以降も、メンバーが代わったとしても継続すべきだ。まだ積み重ねの議論が必要だと感じている。個人的には「地域コーディネーター」という言葉が無くなってしまったのは寂しい。世代差や男女差なく、フラットに人を集め、提案できているようにしたい。

渡辺委員 こども安全・安心協議会の取組では、先進事例として平小学校区などの話を聞いた。他地区で全く同じようにはできないが、モデルとして参考にしながら進めていくことはできる。

小林委員長 あれこれと内科的に考えるだけでなく、外科的に現場で具体的に動かしていかなければならない部分がある。宮前区内には鈴木恵子委員や福本委員の地域での取組や平小学校区のこども安全・安心協議会など良いモデルケースとなる事例がたくさんある。その紹介や働きかけをもっと強調した記述にしてはどうか。

事務局 それぞれの委員の持つイメージが集約されきっていない。中間的にまとめになったところはあるかもしれない。

浅野委員 「宮前区のコミュニティは小学校区単位から」とあるが、押し付けているイメージをもたれてしまわないか。ご近所サークルなどに取組んでいる地域もある。

事務局 たしかにコミュニティにはいろいろな単位がある。市としては「中学校区単位でコミュニティの形成を進める」という方針が示されているので、宮前区はあえてそれより小さな単位で打ち出し、特徴を出したいという思いもある。

小林委員長 コミュニティ形成はなるべく小さな単位が理想だ。

川西委員 老人が1時間で往復できる距離は半径200mという話もある。

永野委員 町会は規模が大小様々だ。根本は顔の見える範囲だが、宮前区をおおよそ均等に17に分かれるという意味でも小学校区がある。

川西委員 小学校区という単位に捉われすぎることがなく、コンセプトが伝わるように“顔の見える小学校区から”にしてはどうか。

モデルケースがあるのだから、それをみんなで学習し、成功事例に学ぶ、ということがもっと強調しても良い。すぐできることでもあるので、具体的な取組例のトップにしてはどうか。

イ 地域防災部会

「部会提案(案)」資料2の説明(渡辺部会長)

部会員との内容調整が未実施。全体会当日までに行う予定。

意見交換

浅野委員：災害対策に対する区民の理解がまず必要だ。例えば、近所にある緊急時の水道栓がいつ開くのか、どういう状況になったら避難所に行けばいいのかなど、漠然とした不安がある。様々な情報のとりまとめを地域防災部会に期待している。防災推進員の育成にしても、まずそのための資料整理が必要だ。そのためのネットワーク組織や会議のようなものを提案しても良いのではないか？

渡辺部会長：「備える。かわさき」という冊子に既にかなりの情報がまとめられている。これを見ていただく機会を増やすことが必要であり、そのための出前講座と部会では捉えている。

川西委員：行政と避難所運営会議のメンバーが集まる場が、その会議になるのではないか。本当の災害発生時には避難所運営会議がかなり重要な役割を果たす。現在そのための準備が進められているので、部会としてはその前の啓発に重点を置いた。具体的な進め方についても、もう少し見える形にしたかったが、時間が少し足りなかった。

事務局 避難所運営会議に関する進行中の取組についても、担当課から情報が入り次第、記述を追加したい。

川西委員 区民会議全体会当日の説明は、行政の担当からの付加説明もあったほうが、良いと思う。

事務局 宇賀神委員からも、避難所運営会議について補足説明していただけると良い。

浅野委員 災害時には消防や警察関係の動きも非常に重要になる。関係者が区民会議で発言できるようにできないか。

永野委員 「地域防災計画」や「避難所運営所マニュアル」に消防や警察の動き方も掲載されているが、一度、区民に系統立てて説明する必要があると思う。

川西委員 防災に関わる主体がたくさんある中で、区民会議が何をすべきかという視点をしっかりと持ちたい。防災推進員の育成には事務局機能が必要だが、どこが担うのか？

浅野委員 防災対策はずっと区民会議だけで続けられるテーマではない。筋道がつけられると良い。

事務局 防災推進員育成に関しては、区役所が事務局を担っていく考えがある。災害発生時の主体については、例えば区と警察のどちらが主かというのではなく、互いに連携していくという位置付けだ。

川西委員 時系列で関係部署への働きかけや動き方が整理されているものがあれば、参考になるはずだ。以前も事務局に入手をお願いした。

小林委員長 自助、共助、公助の機能をチェックする力量がまだない。避難所の開設・運営もまだシミュレーションができていない段階だ。我々がまずやれることは自助を中心に広報、認識への働きかけということで、議論が収束してきた。

渡辺部会長 防災に対する関心をどうやって高めていくかが課題だ。自治会の防災訓練などに参加している区民の割合は低い。寂しいことだが、まず自覚が必要であり、防災指導員の役割もそこにある。

川崎市の地震被害の想定では、宮前区内で全壊家屋が1,440戸、死者が322名という数字もある。

小林委員長 提案の内容だけでなく、議論が絞られてきた経緯も当日は説明していただきたい。

川西委員 消防や警察を含めた連携を進める会合を持つという提案も入れても良いのではないか。

小林委員長 宿題が残っているという申し送りをしてはどうか。

鈴木恵子委員 災害発生後、数時間のうちに安否確認、救出ができるかどうかが鍵になる。防災推進員が何人いても、それができなければ意味がない。そのためには顔の見える関係づくりが大事であり、それこそ、区民がやれることだ。

永野委員 提案を実行に移す際の役割分担等について、もう少し具体的に検討しなければいけないという感覚がある。

小林委員長 消防・警察、避難所運営会議の現状の取組み、今後の連携の方向性について、記述を追加していただきたい。提案実行に際しては区民会議委員も汗を流す必要があるだろう。

事務局 区民会議だけで具体的な検討を進めてしまうのは難しいのではないか。区民会議からの提案を受けてから、区役所内でも具体的な進め方の検討に入ることになる。

川西委員 現状では防災推進員などについてもまだイメージの相違が個人個人で大きいのではないか。

目代委員 子ども部会では、提案後、現場と行政が協働で話し合いを進めているが、地域防災部会についてはどうなるのか。

川西委員 こども部会の提案についても、目代委員・松本委員の子育て団体関係者は関わっているが、他の部会員は関わりが切れてしまった印象がある。特に今回は区民会議委員の任期も終わってしまうので、今後の進め方に関する確認はきちんとしておきたい。

事務局 行政としても、皆さんの思いを可能な限りとりあげていきたい。防災については、提案後も地域振興課が主体となって区民と協働で動いていく予定だ。

小林委員長 できれば、任期内に再度防災部会を開いていただき、具体的な進め方やイメージを詰める場をもっていただきたいと思う。

永野委員 自主防災組織や避難所運営会議の取組がもう少し軌道に乗ってから、その内容を見極めてから検討すべき事柄もあるだろう。次期の区民会議では、防災でも共助を中心に取り上げてはどうか。クロスロードの進行を実際にやれる人は現在、市内にどのくらいいるのか？

事務局 現状で具体的にお願いできるのは市で1人だけだ。出前講座で導入するのも、すぐにできる話ではないだろう。

浅野委員 まちづくり協議会の防災部会で静岡に視察に行ったが、クロスロードとは少し異なるシミュレーションゲームもあった。いつかやってみたいと考えている。

永野委員 提案にもあるが、防災推進員が増えてくれば、防災推進員同士の研修や、クロスロードを学

ぶような場をつくっていけると良い。

(2) 第3回宮前区区民会議の議事について

別紙次第案(資料3)に基づき協議し、以下のことを確認した。

区民会議からの提案に対する取組について

- ・ 行政側の取り組みは区役所内でまとめ、報告する。
- ・ 区民側の取組については、前部長である鈴木委員、目代委員から報告する。
- ・ 協働でやっていることなど、報告が重なる部分もあるかもしれないが、それぞれの立場からの補足や見方から報告を行う。
- ・ 行政側の報告の内容については、事前にできるだけ早い段階で、鈴木委員、目代委員に知らせる。

(3) 今後のスケジュール

別紙スケジュール案資料4に基づき確認した。

- ・ 第3回全体会では、今後のスケジュールについてはさわりとして紹介する程度。企画部会で審議させていただくという形を取りたい。
- ・ 明日のコミュニティ部会、地域防災部会の検討作業はこれまでの会議をもって基本的に終了とする。
- ・ 区民会議のメンバーの入れ替え、提案書の最終まとめ、第4回全体会にむけた区民会議第1期の総括・まとめの方法や進め方、区民会議フォーラムの中身等については、第3回全体会以降、企画部会で検討を進める。

3 報告

(1) 平成20年度宮前区協働推進事業計画(案)及び区の課題解決に向けた取組(案)について

(2) 新実行計画素案について

資料5・資料6に基づいて説明があった。

意見交換

浅野委員 公園で体操をしている方から、「僅かな補助だけで、行政がやっているような顔をされるのは困る」という声を聞いた。体操マップの作成などはありがたくどんどんやって欲しいが、乾電池代を出すくらいなら、地域包括支援センターを突付いてもっと動かして欲しいという話もあった。

川西委員 20年度の協働推進事業計画に区民会議からの提案がいくつか反映されたということは、区民会議の最も目に見える成果であり、とても良いことだと思います。

永野委員 区民会議の提案が予算化されたのはとても良いことだ。福祉は福祉、防災は防災と分けずに地域の様々な活動をつなげるコーディネーターが必要だ。次期の区民会議の課題だろう。

渡辺委員 「本来この協働推進事業費を使ってやるのはおかしいのでは」という事業が今回はそれほど目につかなかった。

小林委員長 みなさんの熱心な議論を取り入れていただけたと感じている。これを見て、公募の人が次期は増えることを期待する。区役所の方々にも感謝したい。

鈴木恵子委員 地域福祉コーディネーターについては、県が勧めている提案型の協働事業の中で、もっと大きな事業費をすずの会が受託している。今年度はプログラムを作っているところで、来年度はそのプログラムの普及を行うことになっている。11月9日に厚生労働省で事例発表も行う。

協働推進事業費の5,500万円を増やすような働きかけもしていきたい。市長が分権を訴えているわりにはまだ市の事業が多いと感じている。

浅野委員 お金を増やすだけではなく、事業全体を区に渡していければ良いと思う。

事務局 区役所職員の意識改革もまず必要だ。区民の方からどんどん市の方にアピールしていただければ良いと思う。

4 その他

- ・ かわさき市民自治創造フォーラムが3月1・2日に土橋小学校多目的ホール等を会場に、開催される。区民会議の紹介なども話も出ているので、今後具体的な検討が必要になるかもしれない。
- ・ 自治推進委員会から、区民会議の現状や課題について、区民会議委員から意見を聞きたいとの申し入れがあった。(参考資料) 企画部会の委員を中心に回答を行う方針とした。
- ・ 宮前・高津・中原の区民会議の委員長・副委員長が集まって懇談会を持った。市会議員と区民会議の役割分担などが話題となった。社会的な課題は市会議員、地域の生活上の課題は区民会議と発言された議員さんがいた。